

令和6年度第1回安曇野市東部アウトドア拠点整備基本構想・

犀川×前川かわまちづくり推進協議会 会議概要

- 1 会議名 令和6年度第1回安曇野市東部アウトドア拠点整備基本構想・
犀川×前川かわまちづくり推進協議会
- 2 日時 令和6年6月6日 午後4時00分から午後5時30分まで
- 3 場所 安曇野市役所4階大会議室
- 4 出席者 松本大学 総合経営学部 観光ホスピタリティ学科 益山 代利子
千曲川河川事務所 副所長 山邊 満 安曇野建設事務所 所長 小林 宏明
安曇野市観光協会 企画営業課長 佐藤 亜紀子
犀川漁業協同組合 代表理事組合長 熊井 正敏
長野県水産試験場 専門研究員 小川 滋 アドバイザー 安藤 太郎
地域連携WS代表者 横内 健人 山崎 雅子
里山WS代表者 長島 美樹 明科区 区長 小山 良
明科中学校長 堀金 猛 明科高校校長 向井 真弓
明科南認定こども園長 水谷 さとる 信州大学 教育学部 准教授 瀧 直也
政策部長 児林 信治 市民生活部長 吉田 美千代 都市建設部長 横山 佳久
商工観光スポーツ部長 黒岩 一也 教育部長 洞 武志
- 5 事務局 政策経営課長 大月 敦史、政策経営課長補佐 白鳥 和子、企画担当係長 宮本 学、
企画担当主査 内川 聡介
- 6 公開・非公開の別 非公開
- 7 会議録作成年月日 令和6年6月13日

協議事項等

◎会議次第

- 1 開会
- 2 委嘱書交付・自己紹介
- 3 政策部長あいさつ
- 4 会長・副会長の選出について
- 5 会議内容
(1) 安曇野市東部アウトドア拠点整備基本構想の内容について
(2) 犀川×前川かわまちづくり計画の内容について
(3) 協議会の目的・役割について
(4) その他
- 6 閉会

5 会議内容

(1) 安曇野市東部アウトドア拠点整備基本構想の内容について

【事務局説明】

【委員】 観光的な側面だけでなく、安全面も配慮した施設にしてほしいということと、将来この場所に帰ってくるこども達が主体となってこの構想を進められるようにしてほしい。

(2) 犀川×前川かわまちづくり計画の内容について

【事務局説明】

【委員】 かわまちづくり支援制度とは過疎の制度とは別のものか。

【事務局】 別のものである。自治体と河川を管理する、国、県と協力して川を活用したまちづくりを支援する制度となっている。

【委員】 過疎の制度と併せて行うことで、より大きな事業ができるということか。

【事務局】 そういうものではなく、河川の整備を行う際に国等の支援を受けやすくなるものとなっている。

【委員】 今回の犀川の護岸整備にあたって、反対側への影響は考えているのか。

【委員】 まだ、そこまで詳細を確認しながら進んでいるわけではないものの、護岸整備に関しては、該当箇所だけでなく全体を考えて進めていきたい。

【委員】 護岸整備に関しては、事前の調査活動は行われるのか。

【委員】 確認させていただく。

【委員】 カヌーがあるからやりなさいというのではなく、こども達に選択させるものになるべきであると考えており、今回整備する場所がこども達の居場所となるように、施設を整備していく段階で主体的にこども達に関わってもらえる場を設けたい。

【事務局】 中学生の総合的な学習の時間等で一緒に進めていければと考えている。また、この場でもそういった意見をお聞きしたい。

【委員】 水辺とまちが繋がるような計画であり、その目標値としてJRの明科駅の乗降客数を示しているが、今回の申請書の中でそういった部分に対する施策の記載が見受けられないため、歩いて楽しいまちづくり等の記載があっても良いのではないか。

【事務局】 まず今回整備する拠点でイベント等を実施することで賑わいを生み出し、その後にまちなかへ繋げていけるように考えているため、今回の計画ではそこまで記載せずに進めるものとする。

【委員】 車で来る人、電車などの公共交通で来る人の導線に関しては事前に記載しておくべきではないか。

【議長】 空き家対策や導線を考えていきながら、進めてほしい。

【事務局】事務局としても、そこは難しい部分である。今年度から地域おこし協力隊が2名配属されているため、彼らも含めてこの協議会でも共に考えていければと思っている。

【委員】私の意見としては、川までの象徴的な導線があればいいとは考えている。

【委員】長野市でも新しい施設があるものの、ほとんどが車で来るため駐車場の確保は必要となっているため、ここでもイベントを行う場合はそこも考えなければならない。

東京の奥多摩の御岳ではJRを使って、川を下ってからJRでまた戻ってくるような形でアクティビティを行っていたりするため、もう少し広い範囲で考えてもいいのではないかと考えている。

【委員】宿泊が伴わないと、まちにお金が落ちない。施設が出来てもまちにお金が落ちないとまちは盛り上がりがないと考えている。また、空き家の改修などに補助金を出すなども良いが、事業を行うプレイヤーに対してお金を出せる制度ができると良い。

【委員】ハードができたとしても、ソフトが大切だと考えている。様々なアイデアを出していただき、その中からいいアイデアが出てくるのではないかと考えているため、様々なアイデアをいただきたいと考えている。

【委員】ハードの整備を行う中で周辺施設への影響も考えながら、協力していただきたい。

【事務局】河川の整備に関して、県の河川課との協議の中で周囲への影響について考えるようにと指導を受けている。

(3) 協議会の目的・役割について

【事務局説明】

(4) その他

【委員】この計画を明科中学校の子ども達の意見を聞いて進めていけることはとても良いことだと思う。子ども達との今後の進め方は決まっているのか。

【事務局】まだ中学校とのお打ち合わせはできていないため、打ち合わせ後に決めていく。

【委員】今後、高校や小学校とも連携を取りながら進めていきたい。

【委員】地図のワークショップを行ったことがあり、それを参加していただく方に思い思いの理想の明科を書いてもらってもいいのではないかと考えている。

【議長】様々な市民の方を交えたワークショップを実施しても良いのではないかと考えている。

【事務局】関係者への意見をお聞きしたいと考えてはいる。ご意見を参考にさせていただく。

【委員】子ども達にとっては龍門淵公園や川は身近な場所になっているのか。

【委員】公園のテニスコート等は授業で活用しており、先日のあやめ祭りの清掃活動にも参加しているため、身近な場所になっているが、前川のカヌーに関してはそのようになっている。

【委員】子ども達には恐れつつも地域の川であるため、自分たちでどのように関わっていくのかを考えなさいと伝えている。

【委員】川に関しては近づかないように伝えている。

【委員】現状の距離感について確認したかったため、把握できてよかった。

【委員】自分がこどもの頃、地元の奥多摩では川に近づくなと言われていた。しかし、現在ではラフティングの事業者等、常に人がいることにより、段々子ども達も川に遊びにいけるようになった。

◎次回の予定

7月29日（月）現地調査実施予定